

マザー・テレサとの出会いと ボランティアについて

講師 えだみ たろう 枝見 太郎氏 財団法人 富士福祉事業団 理事長



1983年マザー・テレサに出会い、亡くなる97年までマザー・テレサ支援のコーディネーターとしてインドやアフリカなどへボランティアを派遣された“日本の福祉の第一人者”。この講座では、貧困や病に苦しむ人々の救済に生涯をささげ、ノーベル平和賞を受賞したマザー・テレサの生き方を通して、ボランティア活動の基本と必要性を学びます。

マザー・テレサとの
出会い

日時 令和5年 **6月20日(火)**

13時30分～16時

会場 市役所地下 団体研修室

対象者 活動中のボランティア、関心ある方

定員 30人（申込み先着順）

申込〆切 6月16日(金)

申込先 鎌ヶ谷市ボランティアセンター
電話 047-442-2940

ボランティアの
必要性

ボランティアとは

【主催】社会福祉法人 鎌ヶ谷市社会福祉協議会 ボランティアセンター
協力：鎌ヶ谷市ボランティア連絡協議会

講師プロフィール

1957年 東京都新宿区生まれ。

大学中退後渡米、2年弱の放浪生活を経て帰国後テレビ局で子ども番組のディレクターとして勤務。

富士福祉事業団の創設者だった父親に多額の給料を払うと騙されてボランティア推進の業務へ転職。学生運動上がりの先輩たちに小突かれながらボランティア活動の神髄に触れる。

1983年、乗船した青年の船の寄港先インドボンバイ(ムンバイ)で偶然マザー・テレサ本人と出会い、その後師事する。マザー・テレサが亡くなる97年まで日本におけるスポークスマン、ボランティアコーディネーターの役割を果たす。寄付がたくさんもらえると先輩に騙されて入会した東京青年会議所で96年には理事長を歴任。

現在、東京都社会福祉協議会理事・東京ボランティア・市民活動センター運営副委員長・被災地岩手県釜石市キッチンカープロジェクト委員長・茨城県小美玉市四季文化館みの〜れ企画実行委員会委員長・明星大学非常勤講師(ボランティア論)・ボランティア活動センターこくぶんじ運営委員長など市民主体のまちづくりを目指しています。



マザー・テレサ

インド・カルカッタに住むひとりの女性が、国、民族、宗教を超えて、貧しい人、重い病の人、差別を受ける人、孤児、難民に至るまで、すべての人の生きる権利を擁護し、そのために惜しみなく命を捧げました。

このマザー・テレサの姿は、世界中に尊敬と共感を呼び起こし、1979年にはノーベル平和賞が贈られました。

マザー・テレサのもとには、多くの見学者やボランティアが訪れ「マザー、私たちは何をしたらよいのでしょうか」と尋ねました。すると、決まって次のように答えたそうです。
「すぐに国に帰って、皆さんの最も近いところから愛の行為、人を大切にすることを始めてください。愛は最も近いところから始まるのです」と。